

平成26年度  
フードチェーン食育活動推進事業  
実施報告書



# 目次

ページ

## I 事業実施要領

- 1. 事業趣旨 .....2
- 2. 事業概要 .....2
- 3. 事業目標 .....2

## II 事業内容

- 1. 継続的農作業体験フードチェーン食育活動プログラム .....3
  - 〔1〕米コース .....4～9
  - 〔2〕すいかコース .....10～13
  - 〔3〕大豆コース .....14～17
- 2. 情報ツール .....18
- 3. 家庭内食育推進支援企画 .....19

## III 効果測定

- 1. 調査のまとめ（検証） .....20～23
- 2. 成果（事業目標の達成度） .....24

## IV 事業総括

- 1. 本事業目標における成果 .....25
- 2. 事業で得られた成果 .....25
- 3. 今後に向けて .....25

## V 付属資料

- 1. アンケート集約（記述部分） .....26～30

# I. 事業実施要領

## 1. 事業趣旨

一つの作物の種まき・定植、除草、収穫などの継続的農作業体験および収穫物を利用した料理（和食）・加工品作りなどを通じ、深く食料の生産・食育に関する系統的理解を促進する。

また、特に家族、親子での参加を促し、家族ぐるみで体験と認識を共有化し、継続的な家庭内での食育活動実践の推進を図るために本事業を行う。

## 2. 事業概要

下記3コースの継続的農作業体験フードチェーン食育活動プログラムを実施した。

①米コース（田んぼの準備、田植え、除草、稲刈り、脱穀、料理教室など）

②すいかコース（定植、ワラ敷き、収穫、試食など）

③大豆コース（種まき、除草、収穫、料理教室など）

また、参加者の家庭内食育活動を促進する資料提供や親子料理教室などを実施した。

## 3. 事業目標

継続的農作業体験プログラムはフードチェーン全体像を体験的に学べ、国内産農産物や生産者への信頼を高め、自らの「食生活」を認識して見直す重要なきっかけとなる。

ア) 日本農業や生産者の現状を知り、理解を深める人を70%とする。

継続的農作業体験プログラムは、多面的な体験や生産者（指導者）との交流を通じて日本農業への理解が深まることが期待できる。

イ) 新参加者を86%とする。

過去から継続した企画はリピーターも多いが意識的に新参加者を募り、本プログラムの体験者を増やす。（大豆・すいかコース100%、米コース60%）

ウ) 今までの食生活を見直し、家庭内での継続的な食育活動を進める人を50%とする。

継続的体験であるため、生産者（指導者）や参加者間の連帯関係も構築され情報交換も活発となり、参加者同士が刺激し合い、家庭内食育活動の実践や改善工夫が進む。よって半数の家庭で食育活動に取り組むよう動機付ける。

エ) 国産農畜水産物購入者数を20%アップさせる。

自らの継続的農作業体験は、国内農業・農産物への理解と関心を深め、農産物の購買行動は意識的に国内産農畜水産物購入へと変容する。「国産と外国産が並ぶ場合、国産農産物を購入する」と答えた人の割合は80%を超えている(\*)が、実際の購買動向は数値とかけ離れている。よって実購買者数の割合を20%増やし80%に近づける。

\* 食料・農業・農村の役割に関する世論調査（内閣府大臣官房政府広報室平成20年9月）

## Ⅱ. 事業内容

### 1. 継続的農業体験フードチェーン食育活動プログラム

#### 【すいかコース】

農事組合法人 茨城県西産直センター  
(茨城県結城郡八千代町)

#### 《産地紹介》

相次ぐ農産物の輸入自由化、価格の引き下げをはじめ厳しさを増す農業情勢の中で、消費者が求める“安全で安定した食糧は、豊かな日本の大地から”をスローガンに掲げて、日本の農業と農家の経営や暮らしを守る組織「茨城県西農民センター」の「産直部」として1989年に発足しました。

#### 〔継続的農業体験プログラム〕

\*すいか作り体験・交流 (5月～7月・3回)  
体験内容：苗の定植、ワラ敷き、収穫

#### 【大豆コース】

やさと農業協同組合  
(茨城県石岡市)

#### 《産地紹介》

八郷は、茨城県のほぼ中央に位置した自然豊かな農村です。昔から養豚、畜産、養鶏などの畜産が盛んで、その家畜の有機物や落ち葉を堆肥にして、野菜・果実の多品目・複合農業が営まれてきました。畜産有機物のリサイクルによって地力保持をはかり、多品目の輪作によって農薬を減らし、自然環境を守る環境保全型農業を行っています。有機部会も設立され、生産に励んでいます。

#### 〔継続的農業体験プログラム〕

\*JA やさと農業体験「大豆コース」(7月～12月・4回)  
体験内容：種まき、草取り、収穫、豆腐作り

#### 【米コース】

農事組合法人 船橋農産物供給センター  
(千葉県印西市)

#### 《産地紹介》

1. 「畑と食卓といのちを結ぶ」産消提携を広げます。2. 地域と日本農業の発展をめざし、食を守ります。3. 誠実と公平をもち、社会と自然の環境づくりに貢献します。それを理念に生産者自身が安全を心がけることは、消費者の安全・安心と共通の利益という考えのもと、工夫、努力しての栽培をおこなっています。独自の栽培基準を設けて化学肥料や農薬の使用を極力控えて、自信を持ってお届けする野菜作りを目指しています。

#### 〔継続的農業体験プログラム〕

\*6年目の田んぼの学校(2月～10月12回)  
体験内容：田んぼ整備3回、田植え、草取り5回、稲刈り・はざ掛け、脱穀、収穫祭



# [1]米コース (船橋農産物供給センター)

## (1) 目的

この企画は、「後継者不足などによる生産者の高齢化や米の低価格などに起因し、休耕による荒れた田が毎年増えているという状況を多くの消費者に知ってほしい」また「食と農について考える機会を持ちながら、お米を食べることが農業支援になるということを理解してほしい」そんな生産者の思いを受けて2009年から始まった。

## (2) これまでの経過

1年目に田んぼへ下る道を作り、覆いかぶさる木を切り、井戸を掘り、20数年間荒れ放題だった田んぼを整備して「みんなの再生田1号」と名付け、お米作りを開始した。現在は、2年目から整備を始めた「みんなの再生田2号」、さらに2014年より「みんなの再生3号田」が加わり、合わせて約37aの田んぼで雑草に挑みつつ農薬を使わない安定したお米作りを行っている。田んぼの整備やお米作りは決して楽な作業ではないが、自分たちで整備した田んぼで作り収穫したお米の味は格別である。お米作りを通して大自然と農業と人の関係を学び、豊かな喜びあふれる時を過ごし、自然・農業・人・生きもののつながりを実感するのが「田んぼの学校」である。



手が入る前の耕作放棄田 2008年12月

## (3) 日程と参加状況

米コース (12回中1回中止)		参加人数					
日程	作業内容 収穫体験	総数	家族数	大人	子ども	小中学生	未就学
2月22日(土)	田んぼ整備1	24	14	18	6	4	2
3月15日(土)	田んぼ整備2	26	14	18	8	5	3
4月19日(土)	田んぼ整備3	31	16	23	8	6	2
5月17日(土)	田植え	39	20	29	10	7	3
6月7日(土)	草取り1 (豪雨のため中止)	0	0	0	0	0	0
6月28日(土)	草取り2	30	14	21	9	6	3
7月12日(土)	草取り3	24	13	19	5	3	2
8月2日(土)	草取り4+稲の花見	25	12	19	6	3	3
9月13日(土)	草取り5+はざ掛け準備	28	15	22	6	4	2
9月21日(日)	稲刈り	34	16	25	9	6	3
9月28日(日)	脱穀	37	19	26	11	7	4
10月25日(土)	収穫祭	30	16	22	8	4	4
参加延べ人数		328	169	242	86	55	31
登録人数		58	24	41	17	10	7